

# 多摩デポ通信 第17号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2011年1月20日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三一・一八

●HP / <http://www.tamadepo.org/>

●E-Mail [depo\\_tama@yahoo.co.jp](mailto:depo_tama@yahoo.co.jp)

出口の見えない今こそ

ブレイクスルーへの

足がかりの一年に！

理事長 座間 直壯

去る06年5月に任意団体「NPO共同保存図書館・多摩」が誕生し、その後08年4月に特定非営利活動法人（NPO法人）の認可を得て今日に至っているのは周知のことです。この「多摩デポ通信」も17号に達し、法人化して3年の歳月が過ぎようとしています。会員の皆様始め、多くの方々のご支援・ご協力を戴きなが

らここまでくる事が出来ました。その間、東京都立図書館再編問題に端を發し、多摩地区の図書館の方々と協力関係の中で資料の共同保存について様々な角度から学習や作業をすすめてきました。

「多摩デポ講座」も昨年の12月に第10回目を開催、3月には11回目を予定しています。講座の内容（見学会等は除く）は「多摩デポブックレット」にまとめ、これまでに第4号まで刊行しています（多摩デポホームページ参照）。

資料共同保存を考慮に入れた除籍作業の方法などに

ついても、試験的な実践を重ねてきました。そこから様々な手法や課題を見つけていることが出来ました。これは他の図書館での活用を願って今後マニュアル化していきたいと考えています。

また、例年開催されている図書館総合展のポスターセッションに参加し「多摩デポ」の活動と資料保存の深刻さについて発信しました。結果は予想以上の反響を戴き、ブックレットの売り上げも伸び、多くの方々の関心の高さを知らることが出来ました。

東京市町村自治調査会では、2010年度の調査研究テーマとして「図書館の今後のあり方についての調査研究」市町村メディアセンターをめざして「を取り上げて研究に取り組んでいます。多摩デポの活動についても聞き取り調査が行なわれました。研究内容の

結果は現在取りまとめ中というのですが、多摩地区広域連携における一つのモデルとして「共同保存図書館システム」の構築についても言及されることを期待したいと思います。

最後に、今年是全国図書館大会が10月13・14日に東京多摩地区を舞台に開催される予定です。「市民の図書館」（1970年 日本図書館協会刊）が発刊されて40年が経過、その節目の年に開催される大会に我々も積極的に参加し、多摩地区の個性豊かな活動を全国に発信し、共同保存図書館の思想をさらに広めていきたいと存じます。

「多摩デポ」と地域の図書館のますますの発展を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。ご支援・ご協力の程よろしくお願いいたします。

## 立川市保存蔵書のた めの横断検索の作業 開始！ 引き続き

### ボランティア募集

多摩デポでは、昨年は日野市の一冊本調査（その市では最後の一冊の保存蔵書が、多摩地域の貸し借りできる公立図書館全体の中では、それぞれ何冊残してあるのかを調査し、今後は多摩地域全体で最後の二冊まではストック出来るようにする、そのための調査）を行いました。この調査は、多摩デポにとっては共同保存図書館の実現に向けた先取り事業です。

今年も、立川市図書館から同様の保存資料の調査を依頼されています。立川市図書館では最後の一冊になっていく個々の資料が、多摩地域全体の中では何冊あるのかを調査する作業です。

実施が、年度末近い時期になつてしまいましたが、今回

の冊数は約6千冊で、ボランティア参加を名乗り出た方々によって作業を開始しています。引き続き参加者を募集しています。自宅のパソコンで横断検索ができる環境の方で少しでも協力してくださる方、どうぞご連絡ください。

作業内容は多摩デポからお送りする、書誌事項が書かれた立川市の蔵書一覧リストの本について、都立図書館サイトにある東京都公立図書館横断検索を行うものです（作業マニュアルも別途用意）。氏名、電話番号、メールアドレスを明記の上、事務局までメールで申し込んでください。作業の時期、件数などはお申し出により調整可能です。

これからも、他の自治体の同様の調査を試験的に行っていく予定です。

## 第10回多摩デポ講座

### 立川市図書館 館長

#### 清水 啓文氏

## 「多摩地域における共同 利用図書館検討調査報告 書」を読みなおす

第10回の多摩デポ講座を12月12日（日）に立川市女性総合センターアイム5階で行いました。

今回は、立川市図書館の館長、清水啓文氏に、『多摩地域における共同利用図書館検討調査報告書』を読みなおす「豊かな行政経験から共同利用図書館の実現を考える」と題して、講演していただきました。

多摩地域の市長の横断的な組織である東京都市長会は2006年11月に『広域連携の勧め』という報告書を出しました。その中では、広域連携事業の一つとして「図書館資料の広域的保存」につい

ても提言されています。

この提言を受けて、多摩地域の各自治体の図書館長で組織する「東京都市町村立図書館長協議会」は、多摩地域の公立図書館の資料保存スペースや除籍の現状などを調査し、広域連携の中で行うべき「共同利用図書館」の具体的なあり方をまとめた報告書『多摩地域における共同利用図書館検討調査報告書』を2008年3月に発表しました。（この調査報告書の内容は日野市立図書館、東村山市立図書館のHPで全文を読むことが出来ます。）

その報告書が出て二年半、今回の多摩デポ講座は、立川市図書館の館長である清水啓文氏に、豊かな行政経験を踏まえこの報告書をどう読んだか、また、今後の多摩地域の図書館としてどのような取り組みが必要かの見解をお話いただきました。清水氏は、現在、「東京都市町村立図書館館長協議会」の会

長でもあります。

お話の中では、広域連携の考え方は、最大で最終の目標だが、一番難しい問題でもある。“多摩”という思想を東京全体では持つておらず、それぞれの自治体はまず自分の地域だけの利益を考えており、連携から生まれる利益を原理にしては動いていない。東京都が重要なのだが、東京都の対応も同じで広域的な取り組みを積極的に推進する姿勢が見えない、ことをまず指摘されました。

立川市のことでは、新たな図書館の基本計画をつくり、その中に「保存スペースの確保」という項目を入れた。事業を実現させるためには、各市の計画の中に文字として残るようにマネージメントしていくことが重要であるというアドバイスをいただきました。

また、多摩地域全体として連携する仕組みが必要であり、例えば、各自治体の企画



課長の連携組織である「広域連携推進協議会」や平成25年に多摩で行われる国民体育大会での自治体連携の機会を利用すること、あるいは多摩地域にある自治調査会の

助成金を活用して図書館連携を再度考えて行くこと、そのような取り組みに関わって行く中で、図書館の共同保存も実現できるのではないかとのお話でした。

最後に、市役所には、どの行政分野でも担当課長職の連絡会のようなものがあるが、市町村立図書館長協議会のような規模や質を持つているものはまれで、それは大変貴重だと思う。せっかくの館長協議会だから、例えば、現在は各自治体の図書館が議会対応や政策づくりのために、その時々に必要なために、問い合わせ集めたりしている、各図書館の最新動向や細部の情報をあらかじめ市町村立図書館長協議会の中で集約し共有しておくデータベースを構築するなど、より有用な館長協議会としていきたい、という見解も紹介していただきました。

## 共同保存と相互協力をめぐる東京都内の動き①

### 国分寺市立本多図書館長

堀 渡

都内の都区市町村立図書館は、平成17年以来、都立中央図書館長を会長とする「東京都公立図書館長連絡会」という組織に拠って、年二回の全体会と幹事会を行っています。

昨年7月の全体会で「搬送便、収集・保存に関する実態調査」が示されました。その結果を踏まえた多摩の市側からの意見として、「各図書館とも除籍は都立や他自治体の所蔵調査をした上で行っている」「利用者の請求に単独の図書館で応える時代ではない」「各自治体の自主努力では限界」「都全体で都民に資料提供できる体制を作る必要」が話され、都立と区市町村が一緒に議

論できる場、ワーキンググループの発足を求める提案が都に投げかけられました。(以下次号)

## ■図書館総合展

### ポスターセッション 今年も参加しました

11月24日から26日、横浜パシフィコで開催の図書館総合展ポスターセッションに今年も参加。一昨年、昨年に引き続き3回目です。

今年には本事業に進展がないので大幅な作り直しはせず、昨年を踏襲し新しいニュースを盛り込みました。ただ多摩デポブックレット4号の完成直後ということで「ブックレットを販売する」という大きな目的がありました。そのためには、常に「人」がついていなくてはなりません。

昨年の経験も踏まえ、一日一人ではなく、午前・午

後に分けて担当を配置。おかげで三日間を通した売り上げが64冊！という成果を上げることができました。1号から4号まで揃いで買って下さる方が多かったのも意外で、書店流通に乗せたとはいえ、まだまだ一般的には目にふれる機会がなく知られていないのだから、と改めて感じました。

「人」がいることで、立ち寄って下さった方に説明できる、効果もあり、地味なポスターの割にはいろんな人が立ち止まって話を聞いてくれます。まずは「本拠地は、建物は、どこにあるのですか」から始まることが多く、何度「いえいえまだその段階ではなく、システムの必要性を訴えているところまで……」と説明したことが。

公共図書館の方が深く共感して下さるのは当然としても、「大きな有名大学は別

として、中小の大学でも事情は同じ」と何人もの大学図書館関係者が声をかけて下さったのはちよつと意外でした。おひとり、図書館学を勉強している学生さんが、とても興味を持って、検索ボランティアもぜひやりたいと言って下さったのはうれしいことでした。

ポスターセッション全体では、大学の司書課程や図書館での取り組みを表現した創意あふれるポスターが目につき、若い人たちが元気だなあとという印象でした。こういう若者を図書館にちゃんと受け入れることができ、活き活きと働いてもらえる社会であってほしいと強く願います。

一方で図書館の今を反映し個人的には問題も色々感じた総合展ですが、多摩デポとブックレット宣伝には貴重な機会になったと思います。(事務局 田中ヒロ)

### 多摩デポブックレット4

「現在を生きる地域資料  
利用する側・提供する側」

書評

浦安市立中央図書館

長田 薫

本書は、09年に行われた多摩デポ講座第4回及び第6回の記録である。第4回は「共同保存図書館・多摩」副理事長でもある平山恵三氏、第6回は小平市市史編さん担当参事である蛭田廣一氏が講演された。2つの講演を1冊にまとめ、公共図書館で地域資料を利用した経験と提供する仕事を対比することを通して、地域資料の意義と望ましい収集・保存、提供のあり方を考えることができるようにしたものである。

まず何よりも、ブックレットが継続して発行され、4冊目となったことを喜び

たい。筆者の僅かな経験からしても、このような出版物を自らの力で継続して発行し続けることの困難さは承知しているつもりであり、関係各位の努力に大いなる敬意を表するものである。

平山氏の講演は、「公共図書館・地域資料供覧の空気を——全国の図書館を訪ねながらの感想と希望——」と題して、氏が雑誌『信用金庫』に連載中の「信用金庫の源流」執筆のために全国各地の図書館を訪ねた経験が語られている。連載は09年10月現在で79回を数え、図書館訪問の旅は全国47都道府県を一度以上は踏査されている。

本書には、これまで訪問した信用金庫のあるまちの一覧が付されている。私も旅行のつど、できるだけ各地の図書館を見学するよう心がけているが、平山氏の行動力には脱帽する。そこ

で語られている、未知の資料の発見、対応した図書館員の機転、現地の人々との思いがけない出会い等々は、読んでいて楽しい。一方で、図書館には「歓迎館」と「監視館」があるという指摘には、遠方から当市ならではの資料を求めて来館された方に、満足していただけた対応ができていたか、改めて考えさせられた。

蛭田氏の講演は、「小平市から発信する——地域資料サービスと資料保存——」と題して、氏が小平市立図書館で33年間携わってきた地域

資料サービスの経験と、現在の仕事である小平市史編さん事業が紹介されている。実務上の様々な成果に加え、市の総合計画に図書館の基本方針を盛り込んだこと、図書館事業計画と事業概要を公開していることは、図書館の運営上模範とすべき貴重な実践である。

小平市の図書館は、当時の東京都による図書館振興策・補助金を受けて開館したものである。この時期には多摩地域に同様な図書館が多数新設され、多くの有為な司書たちが新しい図書館での仕事を始めていた。それらの人々の姿を見て学び、また導かれても来た私にとつて、小平市立図書館の事例は70年代からの多摩地域における図書館活動の成果のひとつとして読むことができた。

多摩デポブックレットには、これからも定期的に刊

行を続け、市民に地域の図書館活動とその資料の重要性を理解してもらえような叢書として成長されることを期待したい。市民と図書館員が協力し、様々な角度から図書館を考える事ができる「市民による市民のための図書館叢書」となることを願っている。

／すみません。  
ご訂正ください。

◆多摩デポブックレット4

正誤表

6P 10行

誤 一九二九年の

10P 7行

正 一九二九年からの

誤 コンブ漁  
正 鮭漁

会員で刊行直後に正誤表をはさまずブックレットをお送りしていた方には、今回、正誤表を同封しました。



好評 発売中。会員外の人にも勧めてください。

## 書庫訪問

### 立川市多摩川図書館の 保存書庫

立川市多摩川図書館

加藤 裕史

立川市多摩川図書館は、79年1月30日に開館し、今年で33年目に入ります。都営富士見町6丁目アパート1階にあり総面積629㎡（事務室45㎡とその他122㎡を含む）で、うち開架部分が307㎡と書庫が155㎡です。書庫は、当館所蔵資料の一冊のみを保存してきましたが、中央図書館の保存書庫（410㎡）が一杯になり、07年からコンピュータ関連本と点字本を当館の書庫に移し始め、その後、外国語資料と7門（芸術）資料も入ってきています。

資料の利用状況は、それほど多くはなく、一日に3

〜5冊くらいで、時々、他市からの協力依頼もあります。一昨年・昨年と、7門（芸術）資料・コンピュータ関連本を整理して多少除籍しましたが、中には多摩地域で一冊の資料もあり、それは保存シールを貼付しています。外国語資料で除籍した資料は、立川市に移ってきた法務省立川拘置所に寄贈しています。中央図書館開館から17年目に入り、立川市図書館として資料保存をどうしていくかが課題です。



多摩川図書館保存書庫  
（7門と外国語資料）



### 今年も行われます

市民の参加自由

## 東京都多摩地域 公立図書館大会

2月8日 国分寺市

基調講演 山口源治郎

第一分科会 館長協議会

2月9日 国分寺市

第二分科会 障害者サービス

2月16日 立川市

第三分科会 地域資料

## 第9回多摩デポ講座

国文学研究資料館はワクワクどきどきがいっぱい

江森 隆子

10月23日、立川市緑町にある国文学研究資料館の見学会に参加しました。モノレールの高松駅から地図をたよりに現地まで来たものの、以前品川区にあった資料館の記憶が邪魔して、予想外の巨大さに「ここがそれだ」とは信じられず建物ぐるり一巡してやっと集合場所に到着。

この資料館は日本文学と関連分野の資料の調査研究、収集・整理・保存をしています。施設の機能としては博物館、図書館、文書館の三つをあわせもっています。見学の前に青木睦准教授から、この資料館の資料保



存にたいする基本理念とその具体的方策について説明していただきました。

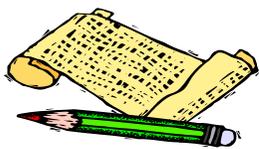
資料保存とは何かについての講義といった趣の一時間でした。青木さんの研究分野は史料保存に関する研究。この研究の成果が、新たな施設と設備の設計に遺憾なく活かされていることがうかがえました。資料の保存って、こんなにわくわくするものだったのか、と刺激的で魅了されました。

講義のときも実地見学のおりも「利用してもらおうこ

とは保存に役立つ」という言葉を何回か聞きました。

「物理的原形をできる限り維持し、永続的に歴史的文化的資源として広く利用可能なよう、適切な保存・公開のシステムの構築」「保存の基本的な方針として、個々の史料からではなく、史料群としてのあり方から、群としてのマトリを重視して、これを物理的コントロールの対象としています」という言葉のとおり、保存書庫の配置も工夫されていました。

その一方で、無駄なランニングコストがでないような工夫、働く人にも負担を少なくする配慮もあり、智慧の集まりと工夫の集積を十分に見せていただきました。



第11回多摩デポ講座案内

# 星俊雄氏が語る電子図書と出版の未来・保存の取り組みの意味

講師・星俊雄氏は、日外アソシエーツ(株)企画営業部長。図書館、出版が気になる者として、電子図書の波の今後を一緒に考えてみよう

3月12日(土)午後2時～4時30分

会場：国分寺労政会館 3F 第2会議室

国分寺駅南口5分

国分寺市南町3-22-10 (電話：042-323-8511)

参加費：500円 定員：30人 先着順

申し込みはメール (depo\_tama@yahoo.co.jp) またはFAX (042-484-3945) で

NPO法人共同保存図書館・多摩

……NPO会員だけでなく、どなたでも参加できます

## デポ講座／その後

# タウンズウェブ スタート！



昨年7月の多摩デポ講座では元アサヒタウンズ記者山田優子さんにお話を伺いました。

37年半もの間、多摩地域を駆け巡って、足で集めた情報を発信し続け多摩大平地域をカバーする唯一の地方紙として、アサヒタウンズが大切にしてきたもの、「多摩」の魅力などを熱く語っていたいただきました。想いは会場一杯の参加者にしつかりと届き、当日参加した北広島市立図書館長

の依頼で、山田さんの故郷でもある北海道で山田さんの講演会が開催されたというニュースもありました。

講演後の質疑応答の時間にはタウンズ廃刊を惜しみ、なんとか新しい形での継続はできないのか、という声が相次ぎました。ウェブ発信の可能性について、会場から意見が出されたことも記憶に新しいところです。

その山田優子さんが、昨年11月、元アサヒタウンズの記者4人と一緒に、多摩の総合情報サイト

## 「タウンズウェブ」

<http://townsweb.com> を立ち上げられました。

展示会やコンサート、講演会などの情報を中心に街の話やグルメ情報などを掲載、すでに多くの情報が集まっています。これから充実・発展を期待しつつ、皆さん、大いに利用させていただきますましょう！

## ■会員の刊行書案内

### 「もしもトイシで 地震にあったなら」

やぶき せうきゆう 著

文芸社 2010年11月刊  
1300円

ISBN  
978-4-286-09471-7

東京農工大学図書館の名物  
司書兼リーダーだった  
著者による

「図書館と温泉のたまに  
真面目なエッセー」  
生協の白石さん絶賛？」

（たいへん愉快な本が出版した。図書館にもこんな人がいるんです。  
右の惹句は帯に書かれた文そのものですが、これだけ読んでも??ナンノコッチヤでしょう。  
大丈夫。手に取り読めばナ

ルポド納得の内容です！

## ★会の現勢

2010年12月末

現在

### ●正会員

(個人会員107名)  
(団体会員3団体)

### ●賛助会員

(個人42名)  
(団体2団体)

今年度の会費の振込みがまだの方には振込票を同封しましたので、早めに納入していただきますよう、お願いいたします。

### ●年会費

正会員(個人・団体) 五千元  
賛助会員一口 二千元  
(個人一口団体五口以上)